

WEB-LUE誌上で2回目の取材となった世界遺産コモド・クルーズ。

今回の取材では本誌初登場となる南部エリアにも潜り込んだ。

フローレス海とインド洋の2つの海域を網羅する

コモド・ダイブクルーズの全貌はいかに?

日本人オペレートによる注目のサザンスタークルーズは、

2つの海流が交わる未知なる海域への挑戦を続ける。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ

「コモドドラゴンの海

コモド取材航海日誌より 2007年 4月22日~27日

Photo&Text=Yasauki Kagii
Special thanks=World Tour Planners Southern Star Cruise





4月22日 未知なる海域へ再び船出!

バリの繁華街であるクタの南国リゾートをチェックアウトし、国内線で、フローレス島のラブハンバジョーへ向かう。所要時間は約1時間30分。ラブハンバジョーはコモド島への玄関口で、フローレス島に位置する。空港でサザンスタークルーズのスタッフに迎えられ、クルーズ船が停泊している港まで送迎車で約5分の道のり。途中、高台からは濃紺の海に接する素朴な田舎町が眼下に広がっていた。この海の先に広がる未知なる海域へ、再びサザンスタークルーズで船出する。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ
「コモドドラゴンの海」

01:ラブハンバジョーの 素朴な風景に迎え入れ られる 02:国内線の飛行機か ら見えたコモド諸島 03:陽気で気さくなスタッフがクルーズライフをサポートしてくれる 04:紺碧の海の渡るサ





今回はフライトの関係もあり、午後からのダイビング は1本となった(通常は2本)。最初のチェックダイブ のポイントに選ばれたのは「SFBAYUR KFCII (セ バユル クチル) |。島影にあり、潮流れがほとんどな い穏やかなポイントだ。9名のゲストを2つのグルー プに分け、2隻のスピードボートに乗り込んで、さっそ くダイビングへと向かった。まず、砂地でジョーフィッシュ を教えてもらう。その後、クリーナーシュリンプやチョ ウチョウコショウダイの幼魚を見せてもらう。右手にリー フを見ながら進んでいくと、大好きなオレンジ色のソ フトコーラルの群棲を発見する。カメラを構えている と、アカククリの若魚が接近してきた。カラフルなソ フトコーラルと可笑しな魚、最初のダイビングで、混 述としたアジアの海の本質を垣間見たようで嬉しく 思う。アカククリはまだ頭部にオレンジ色の模様を 残している。まるで赤ちゃんの蒙古判のようだ。ゆっ くりと潜り、約50分のダイビングタイムを終え、気持ちよくエキジットした。

コモドの海は場所によって水温が変化する。その差は大きく、23度から29度まである。ほとんどのゲストが水温を心配していたが、実際に、1本目のポイントでは30度近くあった(ちょっとヤバイのでは・・・・と思うが)。みんなニコニコ笑顔でダイビングを終えていた。その後、ゲストの女性が表現した「千切れたような島」が点在する海図どおりの海を渡りながら、夕日を眺め、宴に突入した・・・・・。今回のクルーズゲストのみんなもよく飲む・・・・・。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ「コモドドラゴンの海」



チェックダイブから アジアの海にどっぷり浸る 01:オレンジ色のソフト コーラルの陰から現れた アカククリの若魚

2:夕日に染まる諸島の

03:ゴールドスペックジョーフィッシュの顔面撮

04:オレンジ色の名残が あるアカククリ

05:ゆらゆらと揺れながら 泳ぐチョウチョウコショウ ダイの幼魚

06:珍しいメギスの仲間も簡単に見つかる









4月23日

世界遺産コモド諸島航海クルーズ
「コモドドラゴンの海」

コモドはインドネシアの海でマンタに会える稀有な場所







01: Black Vel vet Angelfishはその後、数回で会うことができた 02: 普通種がごちゃ混ぜ の海 03: 海上に現れた穴の開いた岩石 04: カラフルなウミウシもたくさん見つかる 05: 迫力のあるロウニンアジも大接近 06: 濃いピンク色の砂 浜 ピンクビーチは一見 の価値あり

4月23日 (2本目)

世界遺産コモド諸島航海クルーズ 「コモドドラゴンの海」



普通種がごちゃ混ぜで カラフルな海へ

2本目のポイントは「BATU BOLONG」。穴の岩という意味で、海上には穴の開いた大きな岩が浮かんでいた。海中世界は、普通種がごちゃ混ぜの海だった。ハナムロ、キンギョハナダイ、スズメダイなどがリーフを覆い尽くしていた。カラフルなサンゴやカイメンも目に付く。混沌としたアジアの海の代表的な風景が広がり、ダイビングを重ねることで、その本質にコモドの海は導いてくれる。ただ困ったことは、私のカメラに常時装着されて15mmのフィッシュアイレンズと100mmのマクロレンズの2つともその風景の撮影には適さなかったこと。群れを撮るにも、魚群は小さい。マクロレンズに集中したいが、カスミアジなどの捕食シーンなどうるさくて、気になってしまう。

その中でも嬉しい出会いがあった。Black Velvet Angelfishをペア、単体で3固体に出会えた。水中で初対面だった。また、潮当たりの良い場所では、ロウニンアジがクリーニングされていた。警戒心の薄くなった大きな体躯に接近する。いつもよりも追力がある。ホワイトチップシャークも、ナポレオンもいた。このポイントでは人気種よりも普通種のごちゃ混ぜ状態がとても印象的だった。

昼食の後、ピンクビーチにボートで向かう。白砂と 赤い粒が混じりあい、濃いピンク色をしたビーチが 広がっている。みんなで高台に登り、そのピンクビー チを包括するコモドの風景を見渡した。



4月23日 (4本目)

マクロ派ダイバー垂涎の 「PINK BEACH」 ポイント

BEACH |。このポイントは前回の取材でも注目した めてくれた。 場所で、とにかくマクロの生物が豊富だ。エントリーし 発見。その後、30mにある根ではオオモンカエルアン ける。気になる被写体が次から次へと現われるため、 心静かに撮影できず。また、深度を上げるごとに、素 敵な生き物との出会いもある。水深約17m辺りで大 きなコウイカの仲間に出会った。警戒心がまるでなく、

世界遺産コモド諸島航海クルーズ 「コモドドラゴンの海」

4本目のダイビングは、ダイビングポイントである「PINK カメラのレンズを舐めるほどの勢いで私との距離を縮

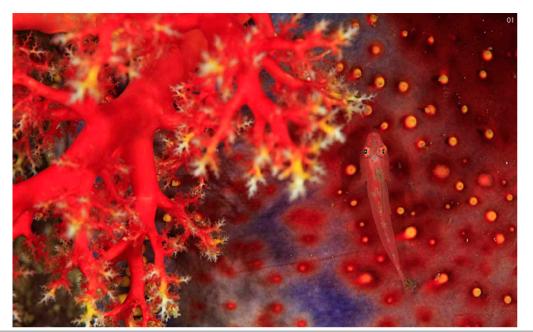
そしてガイドのチェさんは、泳いでいたオオモンカエ てすぐにツノザヤウミウシ(通称ピカチューウミウシ)を ルウオも見つけてくれた。浅瀬に到着すると、豊かな サンゴ礁が広がっている。このポイントは水温が23 コウ、アカカククリの若魚、ウミウシの仲間などを見つ ~4℃と低く、フードベストなどが必須になるが、ポイン ト的な面白さはそのハンディも忘れさせてくれるはずだ。





01:カイメンとウシシダの 舞台でウミウシを撮影 02:ピカチュウウミウシを 砂地で発見! 03:巨大なコウイカの仲 間に食べられちゃいそう な距離で接近撮 04:視線を送るカクレク ラルも広い範囲に分布





「CANIBAL ROCK」 まず、このポイントの名前を 覚えて欲しい。

01:シーアップルについていたハゼ。このような出会いが嬉しい 02:シーアップルというカラフルなナマもたくさん見つかる 03:クダゴンペなどのアイドル種も見つかる 04:オレンジ色をグリーンのイボド性のお花畑 の海を漂う





4月24日



クルーズ船は南下して、コモドのダイビングエリアでは最南端のエリア(リンチャ島とヌサコデ島の間)に到着。1本目のポイントは「CANIBAL ROCK」。大きな根の周囲をダイビングしていく。前回の取材では、このエリアまで足を伸ばすことはなかったために、初のエントリーとなった。

ポイントの印象は、ひとことで「草原とお花畑」。緑のナンヨウキサンゴはポリプを開き咲き乱れ、その色に影響されるようにウミシダも緑色を帯びている。昨日までとはまるで違った海の風景が広がっていた。またオレンジ色のナンヨウキサンゴも同じく咲き乱れ、ホヤやソフトコーラルもその色彩を誇っている。クダゴンベ、オオモンカエルアンコウもガイドのチヨさんが見せてくれた。水温は24度だったため、みんなはフードベストを着用し、その花園に迷い込んだ。寒さが苦手な女性ダイバーも60分のダイブタイムを潜り終え、十二分に満喫していた。私自身もこの海の特異性を知り、ますますこの海の虜になった。インド

ネシアの海に何度も通いながら、まだ知らなかった 風景の広がりに未知なる鼓動を覚えた。

2本目のポイントも同エリア内にある「BANANA ISLAND」。1本目のポイントと大きく異なるのは、地形が傾斜のポイントであるということ。リーフの様子は良く似ているが、所々に砂地があり、そこではツカエイやヤマブキハゼなども見られる。その他にオオモンカエルアンコウなどにも遭遇。1本目のポイントがあまりにもインパクト強かったために、少し大人しめこのポイントは印象に欠けるが、穏やかでリラックスして潜れるポイントであった。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ「コモドドラゴンの海」





01:シャイなマンジュウイ シモチ

02:かわいいイソギンチャクの共生するクマノミ の幼鱼

03:サイケなニシキテグ リはたくさん発見

04:ごちゃ混ぜのアジア の海の代表的な風景 が広がる

マンタ不発でも、 海の魅力は十分にある

3本目のポイントは「MANTA ALLEY」。ブリーフィング前に唐澤さんが、スノーケリングでチェックして来てくれる。残念ながらマンタの姿は確認できなかったが、微かな期待を抱いてエントリーした。エントリー直後、すぐに視界いっぱいに広がったのは、オレンジ色の蛍光ソフトコーラルの群棲。メナドにあるバンカ島の「サハウン。」と同じもの。それはインドネシア以外のエリアではなかなか見ることの出来ない美しい風景。オレンジ色のナンヨウキサンゴのポリプと良いコンビネーションで少し水温の低い海底世界は、まるで南国の温暖色で包まれているようだった。4本目のポイントは、「LEHOK SERABAY 2」。浅瀬に鎮座している沈船が漁礁となり、ツバメウオ

4本目のポイントは、| LEHOK SERABAY 2]。 浅瀬に鎮座している沈船が漁礁となり、ツバメウオ やキンメモドキなどの居ついている。ガイドのチヨさ んがお薦めNO1のポイント。沈潜の周囲の砂地で は、たくさんのジョーフィッシュやカニハゼ、ウミウシな どが見られる。また、このポイントのチャーミングな見所は、マンジュイシモチとニシキテグリの人気の両者。 枝サンゴに逃げ込むシャイなマンジョウイシモチを観察、撮影していると夕暮れになり、今度は主役交代で、ニシキテグリがちょこまかと姿を現す。サンセットダイブでニシキテグリなど目的もはっきりしているために充実感を覚えるダイビングとなった。

夜の宴は今晩も続き、地元の焼酎であるアラックは 美味過ぎ……でした。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ「コモドドラゴンの海」

4月24日



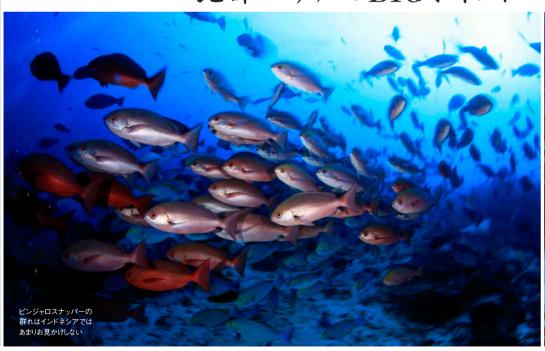






4月25日

北部エリアのBIGポイントへ蒼い海から無尽蔵の魚たちが溢れ出す!











01:バンドゥイルカを群れを遠に見る 02:タテジマキンチャクダイの横顔 03:魚たちの表情もどことなく穏やか 04:大きなクラゲは浮遊していた 05:ツムブリの群れが好奇心旺盛の周囲を泳ぐ 07:岩の下に群れるリボンスィートリップス 06:ウミウシの正面顔を激写!

4月25日

イルカにクラゲ、 温かな海域の主役たち



クルーズ船は北上し、コモド島周辺までやって来る。 この辺りは水温が27度くらいあるので、フードベスト を着込まずに5mmのウェットスーツのみでエントリー した。

1本目のポイントは「CASTLE ROCK」。コモドでも 有名なBIGポイントで、潮流があまりも早い時はエ ントリーすることができない。ボートからのバックロー ル・エントリー後、カメラを受け取ってすぐに潜降を 開始する。ギンガメアジの群れに迎え入れられ、潮 辺りの良い水深27mまで降りる。ムレハタハテダイ、 ヒラニザ、ピンジャロ・スナッパーの群れが目の前で 交錯する。青い海の中は、まるで水族館のように魚 たちでごちゃ混ぜ状態。リボンスィートリップスの群 れなど見ながら、水深を上げ、安全停止を行う。根 のトップリーフはダウンカレントなどの複雑な潮が入 り混じるため、みんなで一斉に水面に浮上する。私 たちは昨日の南部とはまた違ったスケールの大きな 海に潜り込んでいた。

2本目のポイントは「CRYSTAL ROCK」。「CASTLE ROCK と並ぶBIGポイントして人気のあるポイント。 潮の流れが緩やかになっていたために、魚影はどう かな?と心配したが、ここでも素敵な出会いがあった。 ガイドのチョさんが、遠くにいる同じグループにゲス トダイバーの方に指差す。何かを発見してみんなで 観察しているように見えた。ゆっくり近づいていくと、 何やら様子がおかしい。よく見ると、バンドゥイルカ が逆さになって海底を物色していた。数は8頭ほど。 撮影可能な距離まで接近することはできなかったが、 私たちの存在に気がつき、水面に浮上していく彼ら の姿はとても美しかった。想定外のこんな出会いは、 とてもハッピーな気持ちさせてくれる。他のグループ も日撃したそうだ。夫年からガイドのチョさんは3度、 水中イルカに遭遇しているとのこと。その後は、ツム ブリの群れやタイマイ、大接近するロウニンアジと 遭遇。1本目と同様、大満足でエキジットした。



3本目のポイントは「LIGHT HOUSE」。潮に乗り ながらゆっくり進んでいくと、イナズマヤッコ、タテジ マキンチャクダイ、ロクセンヤッコなど、ヤッコ系のカ ラフルな魚たちが次々と現われる。トップリーフには、 大きな赤いイソバナが太陽の光を一身に受けよう とその枝葉を広げている。ガイドのチョさんとナマコ に共生するカクレエビヤウミウシなど観察しつつ、潮 辺りの良い先端まで移動する。アカククリの成角の 編隊が泳いでいるが、潮の流れが強すぎるためか、 深場に消え去っていく。期待していたマンタとの遭 遇も、これまた叶わなかったが、のんびりダイビング を楽しむことができた。

このクルーズ船の基本的なスケジュールは1日3本 だが、リクエスト次第では、4本目のダイビングを行う ことができる。今日は、1本日のポイントがあまりにも 面白かったということで、数人のゲストは再度、 「CASTLE ROCK」に向かった。みんなコモドの海 を満喫している。

4月26日

オレンジ色の太陽が海から昇ってくる様子をベット の中から眺める。室内にある窓は大きく、外の様子 がよくわかる。朝一番で唐澤さんが、マンタポイント のチェックに向かってくれた。しかしマンタが出現す

少し早い潮流のなか、 スケール大のコモド海に身を委ねる

4月25日(3本目) 26日









る気配がないとのこと。クルーズを開始して以来、 最もマンタで苦戦していると唐澤さんは嘆いていた。 7時の朝食の後、1本目のダイビングポイントは 「TATAWA KECIL」。ブリーフィングで聞いていた 潮の流れとは逆方向だった。少し早い潮の中で目 の覚める思いで、魚たちとのご対面を果たしてきた。 出会った群れものはアカククリで、数は30匹ほど。 その他、ヤッコやギンポの仲間などを色鮮やかなリー フを舞台に撮影することができた。浅瀬のササンゴ 礁がとにかく美しく、女性のゲストダイバーは「最後 は連綿と続く美しいサンゴ礁に癒された。とてもキ レイなポイントだった | とエキジットしてきた。

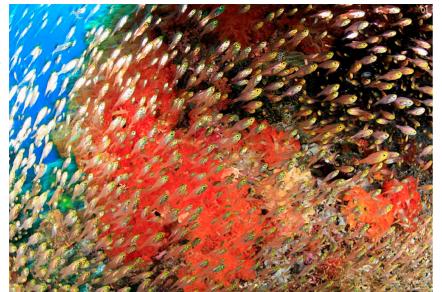
世界遺産コモド諸島航海クルーズ 「コモドドラゴンの海」



01:リーフの上で見つけ 04:ハナビラクマノミは た大きなイソバナ。迫力 あまり動かない良い被 02:キンメモドキの群れ 05:コモドではアカククリ の群れをよく見かける 03:ハナヒゲウツボは大 06:ナマコに共生してい きな口を開けて、誘って たカクレエビ

> http://www.wtp.co.jp/renewal/komodo/index.htm

01:オレンジ色のソフト コーラルを舞台にキンメ モドキの群れを撮影 02:妖艶な色を身にまと ラハナダイ 03:ハマククマノミのか わいい表情を写し撮る



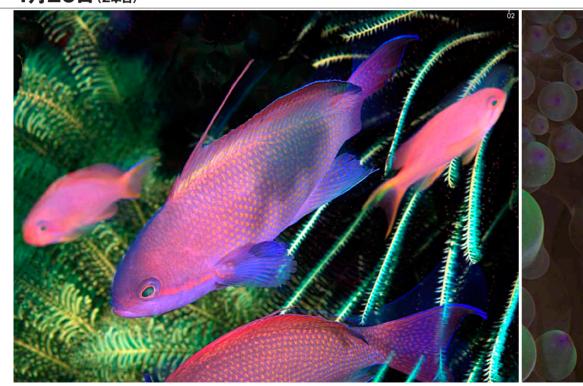
最後までカラフルな演出に驚き、またこの海に帰ってくる約束をする

2本目のポイントは「TATAWA BESAR」。緩やかな傾斜を潮の流れに乗ってダイビングしていく。ブルーウォーターではロウニンアジが泳ぎ行く。美しいのは、リーフに点在する蛍光のオレンジ色のソフトコーラル。このソフトコーラルに憧れ、メナドの海の通っていた。ここでは、そのソフトコーラルがまるでお花畑のように広がっている。メナドに比べて、単色のために少し様子は違うが、それでもすべてのゲストダイバーを魅了する。ここもひとつの海の楽園。大きな根の穴のなかにキンメモドキが群れていた。穴を縁取る

オレンジ色のソフトコーラルをフレームにして撮影する。60分のダイブタイムはあっと言う間に過ぎていく。 温かなで生命豊かな海に漂い、また新しい海と出 会えたことに感謝し、全てのダイビングを終えた。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ「コモドドラゴンの海」

4月26日 (2本目)





コモド島と言えば、やはりコモドドラゴン。まるで恐竜時代を彷彿させるその姿態は、とても迫力がある。現在、コモドドラゴンが生息しているのは、コモド島と隣のリンチャ島のふたつ。サザンスタークルーズでは、より観察に適しているリンチャ島での上陸観察を行っている。コモドドラゴンは、上陸する桟橋やレンジャーステーションの周囲にたくさんいている。暑い日中はお休みをしていることが多いが、ちょっとしたタイミングで素早く身を翻すし、その機敏な動きに驚く。リンチャ島には現地のネイチャーガイドと共に歩く簡単なハイキングコースもある。高台の丘に登りパノラマビューを楽しみながら、貝の化石などを探す。コモドドラゴンに化石、タイムトリップを容易にし、太古の時代に誘ってくれる。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ「コモドドラゴンの海」

また、もうひとつの上陸観察はピンクビーチ。コモド島の南に位置し、ピンク色のサンゴ礁の欠片、または鉱石の粒が白い砂地に混じっているためにピンクに見える世界でも稀な海岸線がある。

サザンスタークルーズの上陸観察はコモドでしか体 験できない素敵な時間だ。





01:爽やかな風を感じながら、リンチャ島の高台を歩く 02:高台では貝の化石も見つかる 03:レンジャーステーション付近ではたくさんのコモドドラゴンに会える 04:ピンクビーチは世にも不思議な海岸線

コモドドラゴンに会いたい! ピンクビーチを素足で歩きたい!

ダイビングの合間に





鍵井(以下鍵) いつからこのサザンスタークルーズ号を始められたのですか?

唐沢(以下唐) 2005年より調査を開始、数度のテスト航海と欧米人向けにツアーを行いました。そして、2006年4月より日本人対象に本格的にコモドエリアのクルーズを販売開始いたしました。

鍵 なぜ、コモドでの展開になったのでしょうか?

唐 コモド諸島は、海峡に隔てられた島々の影響から恐竜の生き残りと言われるコモドドラゴンが唯一生息する島々です。またピンクビーチと言うピンクに染まるビーチなども含め、世界自然遺産、また国定公園として指定されました。コモドの自然は海、陸、

共に、厳重に保護されています、特に、インド洋とフローレス海を結ぶ海峡に島々が点在することから、水中生物&環境が優れていることが予測できました。更に、まだ日本人に多く知られていなかったことなど、「この島々が私どもにコモドでクルーズをしなさい!」と言う啓示があった様に思えた事からコモドでの展開となりました・・・

鍵 最初にコモドの海に潜られた時の第一印象はいかがでしたか?

唐 「海は奥が深い」と言う事は当たり前の言葉ですが、それ以上に底が無く・・・「こんな海が未だあったのか?」と言うのが正直な感想です。海峡を渡る

潮流に、豊かな生き物、そしてサンゴ礁。 北と南(50 キロ範囲内)のエリアで変化する水温と生物層は 男性的な海であると共に、女性的な一面を見せて くれる海でした。 私は直ぐに魅了されました。

鍵 そして、現在に至り、海の印象に変化はありましたか?

唐 始めは「この海に拒否されているのでは?」と思った事も何度もありましたが、そのうちこの海が少しずつ受け入れてくれている様に感じる事も多くなりました。それは男性的な海でありながら、女性的な一面と内面を少しずつ見せてきてくれたように感じます。激流渦巻く光り物の海から、優しい流れの中に揺

れる珊瑚とカラフルな生物、そしてどんどん溢れ出してくるワイド、マクロの生物、始めから一貫して「海は奥が深い」と言う言葉を痛感すると共に、より強く感じる様になってきています。

鍵 雨季 (12月~4月) と乾季 (5月~11月) では、 どのような違いがあるのでしょうか?

唐 乾期は極端に雨が少なく、水面上の景観は 荒涼とした島々となり、海も透明度が上がります。ま た空気が乾燥し日中、日陰では肌寒く感じる事が 多くなります。更に、南と北のダイブエリアにて水温 の温度差も大きくなります。

逆に雨季は水面上、緑の稜線が続く島々となり、

サザンスタークルーズGM・唐沢百年実さんへの質問

Question



水温の変化は少なくなりつつも、南側エリアでも水温は高めとなり、全体的に安定した海況下で魚が多く目立ちますが、透明度も落ちるのがやはりこの季節です。

鍵 マンタに関しては、どのシーズンが狙い目など あるのでしょうか?

唐 昨年は100%の遭遇率でした。決まったシーズンは無く、どんなシーズンでもお見せできると思いますが、数を求められる様でしたら、潮回りと時間帯に配慮が必要となります。50枚以上の数は月に数度という機会になると思います。

鍵 他の海の比べて、コモドの海の特異な点は何ですか?

唐 50キロ圏内に各ダイブサイトが集約するコモド

諸島ですが、北のフローレス海と南のインド洋が入り交じる(サペ海峡とリンタ海峡)海峡中の島々(ダイブサイト)で在るため、流れの影響を強く受けますが、その生物層は素晴らしく、回遊魚から寝付き魚、はたまたワイドからマクロまで、さらに太平洋型とインド洋型が混在するハイブリットな生物も発生する場所でもあります。

勿論、硬質・軟質珊瑚もバランス良く密生し、原始 の海という言葉を彷彿させる点と思います。

鍵 また、クルーズ船で巡る陸の魅力を教えてください。

唐 世界的希なピンクビーチへの上陸は現在弊 社だけの極秘のビーチでノンビリしていただける事、 またコモドドラゴン観察ウォーキングではレンジャー 解説(生態)を詳しくすると共に、野生のドラゴンは 基より数百年前の化石、また最終日の無人島での サンセットBBQでは魚介類を豊富に揃え、自然を酒 の肴に今クルーズのダイビング話を楽しくさせること と思います。

鍵 また、ゲストダイバーへ、メッセージをください。 ここでしか味わえない原始の海を是非、堪能してく ださい。

唐 何が見られるか?では無く、何と遭遇するか?それがコモドの海です。

また世界絶滅危惧種であり、恐竜の生き残りと言われるコモドドラゴンも霊長類最上と言われる皆さんとの出会いを待っている事と思います。

世界遺産コモド諸島航海クルーズ 「コモドドラゴンの海」





木村 知代さん

サザンスタークルーズの紅一点。 ゲストリレショーン兼ガイドダイバー。 いつも笑顔で優しい、癒し系のメ ガネっ子。バリの町歩きやエステ 情報にも詳しく、女性ゲストが6割 近いサザンスタークルーズで大活躍。 お酒も大好き。また「脱がせ好き、 覗き上手、リンチャ島ではカメムシ 女と呼ばれる | など何かと話題の 多い(?)女性ガイドさん。



ルディさん

ロンボク出身、フローレスの海を 知り尽くすメインガイド、サザンスター クルーズの縁の下の力持ち。英語、 ドイツ語が堪能で、日本語少々。 みんなに優しい、こぶとりダイバー で最近、頭髪が気になり始めた(年 齢詐称疑惑あり)。大のサッカー 好きで、什事をサボって、W杯観 戦のためにドイツへ向かった経歴 有り。



プラナントさん

日本への渡航経験もある日本語 堪能なクルーズマネージャー。ダイ ビングにも精通し、スピードボート の操船も行う。その他、ヨット、水 トスキー、ジェットスキーなどマリン スポーツ全般を得意とする。特に、 水上スキーは日本人チャンピオン も唸らせた腕前。夜にはギターを 弾き、日本語の歌も披露する。釣 りも極める多趣味人

スタッフ紹介

Southern Star Cruise Ship & Staff infomation サザンスタークルーズ

01:快適なクルーズ船・ 03:クルーズの美味しい 02:最終日は無人鳥の 04:トップデッキには温

快適なクルーズ船でコモドがもっと楽しくなる!



世界遺産コモド諸島航海クルーズ 「コモドドラゴンの海」 クルーズ船に関する詳細な情報はバックナンバーをチェック!!!!

http://www.web-lue.com/magazine/img/vol05 004 komodo.pdf